

令和8年度 清田南小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25505

実態	「学ぶ力」	
	これまでの成果	課題
	本校の児童は学習に対して意欲的であり、学校評価アンケート「学習への意欲」で肯定的な回答をした児童は90.6%と高い水準にある。この高い意欲を支える基盤として、「タブレット活用」においても肯定的な回答が83.5%と高い。ICT機器が児童にとって学びを深めるための不可欠なツールとして日常的に定着してきた。	学校評価アンケートの「学習の活用」において肯定的な回答が43.5%と最も低く、知識を実生活や他の場所で使いこなす「活用力」の育成に課題がある。「授業の理解度」においても否定的な回答が17.6%存在しており、学習意欲はありながらも理解が追い付いていない層が散見されることから、ICTを有効に活用した個別最適な学びによる支援を更に進め、理解の定着を図る必要がある。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く【相互承認の感度】の現状と課題	
	札幌市の共通指標アンケートや学校評価アンケートから「友達との協力」「感謝の言葉」が定着し、互いを尊重し助け合う情緒的な相互承認が学びの土台として築かれている。一方、「友達の良さの発見」「学習の活用」の否定的回答が多い。仲の良い協力を留まらず、他者の異なる視点を自分の思考を深める資源として承認し、新たな課題解決に繋げる知的な相互承認が求められる。対話を通じ、互いの考えを磨き合う協働学習の実現が更なる学ぶ力の向上への課題である。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

他者の多様な考えを自分を磨く資源として承認し、新たな価値創造に結び付ける「対話的活用力」

取組	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
		<p>「課題探究的な学習の推進」のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「見通し」を共有し、友達の視点を取り入れる工夫 ◇ICTを活用した「試行錯誤」の可視化と共有 ◇「活用」の場面を意図的に設定したパフォーマンス課題 ◇相互承認を深める「対話のふり返し」の定着 ◇教師による「学びのプロセスの価値化」と価値付け

〈本プログラムの実行に向けて〉

